

<ポイント版> ぎふ経済レポート（令和6年10月分）

【製造業】

○製造業は、8月の鉱工業生産指数は前月比▲3.4%となった。ヒアリングでは、国内需要が戻ったことにより、10月の売上高は、前月比において増加、前年同月比についても増加を見込んでいるとの声や、国内需要が戻ったことにより、10月の売上高は、前月比において増加、前年同月比についても増加を見込んでいるとの声が聞かれた。

○地場産業は、8月の鉱工業生産指数は、木材・木製品、窯業・土石、繊維、パルプ・紙で下降した。ヒアリングでは、輸出事業は堅調に推移しているものの、小売事業の苦戦が顕著であり、売上は前年比7～8%減少しているとの声や、綿糸、繊維業界の見通しはかなり悪いと聞いており、取引のあるタオルメーカーも織機稼働率は3～4割減少しているとの声が聞かれた。

【設備投資】

○設備投資は、9月の全国の金属工作機械受注額は、前年同月比▲6.5%となった。ヒアリングでは、原価計算システムの追加や、チャットGPTを活用し生産計画を作成するシステムを導入しているとの声や、出荷時における製品のストック場所や出荷口、搬出スペースの確保、整備なども検討しているとの声が聞かれた。

【個人消費】

○個人消費は、9月の販売額は、全体で前年同月比▲0.7%となった。ヒアリングでは、客数と買上点数は前年を上回ったものの、客単価は下回ったとの声や、10月より食品等値上げされた品目があり、嗜好品などへの消費意欲減退が懸念されるとの声が聞かれた。

【観光】

○宿泊者数はインバウンド客の増加等により、前年同月と比較しプラスとなるなど、回復傾向にあり、コロナ前の約9割まで戻ってきている。宿泊施設からのヒアリングでは、人手不足に苦慮しているとの声が多くあり、外国人人材を活用する施設もあった。

【資金繰り】

○9月の制度融資実績は、金額で2ヶ月連続で減少となった。資金需要は、特段大きな動きはないが、金利の引き上げの影響はまだ大きくないためか、融資残高ベースで見ると、緩やかに増えていっているとの声が聞かれた。

【雇用】

○雇用面は、9月の有効求人倍率は1.49倍と36ヶ月ぶりに1.50倍を下回った。ヒアリングでは、障がい者雇用については、中途及び新卒採用を通じて法定雇用率2.5%を満たしており、社内の業務支援センターで清掃業務等に從事してもらっているとの声が聞かれた。一方で、来年4月のベースアップ等、賃上げについて、利益を削ってでも対応する必要はあるが、そのような利益が確保できるかどうか、中小企業としては厳しいところとの声が聞かれた。

【景気動向】

7月の景気動向指数（一致指数）は前月比▲0.8ポイント、9月の中小企業の景況感と同2.0ポイント上昇となった。